

めばえ保育園の自己評価

令和 5 年 4 月より「子ども家庭庁」が発足し、「こどもまんなか社会」の実現に向け社会全体での取り組みがより一層強まりをみせました。

このように法令や社会全体の取り組みにおいても子どもの意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮されることが強調される中、当園の保育がそれに沿ったものであるかの振り返りと見直しを「子どもが子どもらしく自己発揮、自己主張できる保育づくり」とのテーマを掲げて保育を行った。

また、この取り組みには沖縄女子短期大学より講師をお招きして数回に渡りご助言をいただきました。そこからさらに、「子どもを善く見る」との具体的な視点も加えて、子どもの善いところ探しを職員間で共有する取り組みを行いました。

とはいえ、まだ保育者の思いが強く出てしまい、一人ひとりのその時々のおもいに寄り添えなかったり、必要以上に引っ張る関わりになってしまうことも多々あるのは課題であるが、「その子、理解」を職員全体で持ち、模索し始めたのは当園にとっては大きな一歩となっている。

その中で、徐々にではあるが子どもを善く見る視点が芽生えてきており、さらに、その変化を職員間で気づき合う関係が出ており、これは大きな成果であり評価できるものであると感じている。

次年度も継続して取り組むが、「芽生えた興味関心が満足できるよう特に 0～2 歳児までに、自分で決めてやる」「子どものやりたい思いを保障していきながらも、必要に応じた選択肢を持たせるようにしていく」ことを大切にしていきたい。

子ども家庭庁の発足により、子どもの最善の利益保障が社会全体に求められており、保育所はその重要性を発信する場でもある。保護者の協力を得ながら、身近な所から子ども一人ひとりの最善の利益保障に繋がる保育と発信をしていきたい。